

第5章 計画の推進体制

- 1 計画の推進体制
- 2 計画の進行管理

1 計画の推進体制

健康づくりや食育を推進するためには、個人の自主的な取り組みを支える環境整備が重要です。行政、市民、教育機関などが連携し、それぞれの役割を果たすことが不可欠です。個々の健康意識や食育への関心を高めることで、地域全体で持続可能な取り組みが可能となります。具体的な施策を通じて、地域での健康づくりを進める必要があります。

■市民（個人）の役割

市民が「自分の健康は自分で守る」という意識を高め、健康づくりや食育に積極的に取り組むことが大切です。生涯を通じて健康でいきいきと過ごすため、自分に合った目標を立てながら取り組むことが必要です。また、地域活動にも積極的に参加し、地域を支える意識を持つことも重要です。

■家庭の役割

家庭は生活の基盤であり、家族の健康づくりや食育において重要な役割を果たします。家族全員が心身ともに健康に過ごし、大人から子へ健康的な生活習慣や食の楽しさを伝え、ともに実践することが重要です。

■保育・教育関係者の役割

保育所・幼稚園・学校等は、乳幼児期から学童期、思春期にかけて、こどもたちが一日の大半を過ごす場です。ここは、生涯にわたる望ましい生活習慣や社会生活の基礎を学ぶ場でもあり、その後の生活に大きな影響を与えます。こどもが自分の健康に関心を持ち、自ら健康づくりや食育に取り組む姿勢を持つよう、家庭や地域と連携しながら、個々の発達段階に応じた取り組みを推進することが重要です。

■職場の役割

働く人にとって、職場は生活の大半を過ごす場であり、心身の健康を保つうえで重要な役割を果たします。従業員の安全を確保し、健診による健康管理を行うとともに、長時間労働対策やメンタルヘルス対策に積極的に取り組み、健康経営を推進することが重要です。

■保健・医療専門家の役割

保健・医療専門家には、専門的な立場から市民への働きかけや、生活習慣病予防などの健康づくりに関する情報提供が期待されます。特に、かかりつけの医師、歯科医師、薬剤師は病気の治療だけでなく、健康づくり全般において市民の良き助言者として重要です。また、行政や関係機関と連携し、市民の健康問題に対応するとともに、疾病予防のために健診（検診）を支援することも重要です。

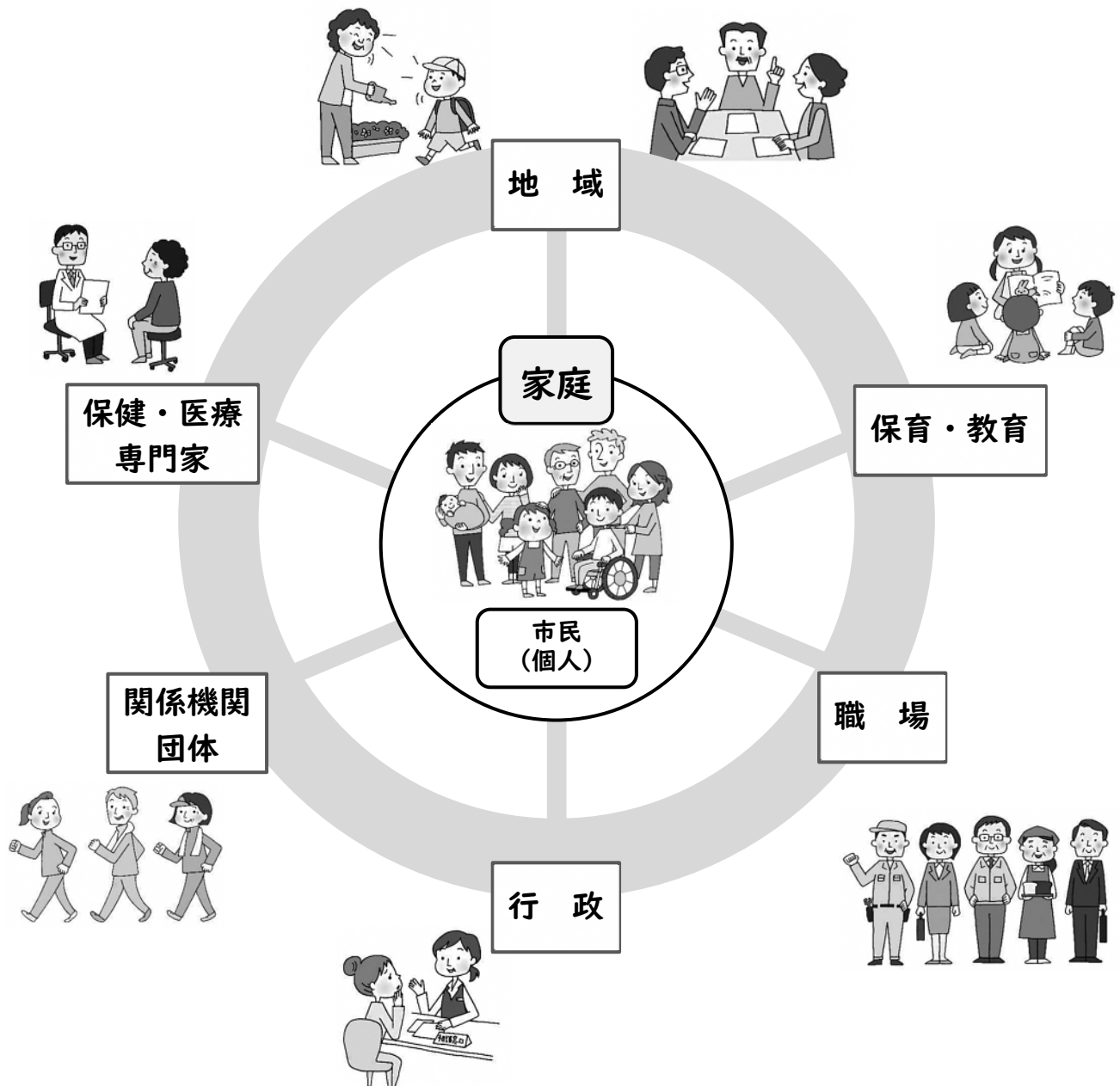
■関係機関・団体の役割

地域社会は日常生活の場で、市民にとって身近で重要な社会資源となります。健康づくりや食育に関する活動を行っている地域団体は、それぞれの立場で自主的に学び実践するとともに、行政や他の団体と連携し、地域ぐるみの健康づくり・食育活動を推進することが重要です。

■行政の役割

行政は、市民が健康づくりや食育に取り組むためのきっかけをつくり、環境を整えることが求められます。市民の自主的な取り組みを促進するため、健康づくりや食育に関する情報を提供し、市民の健康意識や食育への関心を高めることが重要です。また、こうした取り組みを支える環境を整備するため、保育・教育関係者や関係機関との連携体制を強化し、協働による健康づくりに取り組むことが重要です。

【健康づくりの取り組みの連携 イメージ図】



2 計画の進行管理

交野市の健康増進計画を効果的かつ着実に推進するためには、PDC Aサイクル（Plan [計画] → Do [実行] → Check [点検・評価] → Action [改善]）を基本とした進行管理を継続的に実施する必要があります。計画の進行管理にあたっては、健康増進課が中心となり、庁内の関係部署と連携を図りながら、関係団体との情報共有を通じて、総合的かつ計画的な取り組みを進めてまいります。

また、社会情勢の変化などにより計画の変更が必要となった場合には、交野市健康づくり推進委員会を通じて、柔軟かつ迅速に計画の見直しを行います。本計画は、交野市総合計画に基づき、基本構想・基本計画・実施計画といった各段階における計画内容を参考にしながら策定しており、市全体の目標や方針と整合性を保ちつつ、持続可能な健康増進の取り組みを進めてまいります。

このように、PDC Aサイクルを活用した進行管理のもと、関係機関と協働しながら市民の健康づくりを推進し、長期的な視野で計画を着実に進めてまいります。